

(様式5 実施結果の公表)

さくらがわ地域医療センター経営強化プラン（案）
のパブリックコメントの実施結果

令和5年5月

桜川市保健福祉部健康推進課

■意見集計結果

令和5年2月1日から3月3日までの間、さくらがわ地域医療センター経営強化プラン（案）について、意見募集を行なった結果、2人から4件の意見の提出がありました。

これらの意見について、適宜要約した上、項目ごとに整理し、それに対する市の考えをまとめましたので公表します。

提出方法の人数は、以下のとおりです。

提出方法	人 数
直接持参	1人
郵 便	0人
電子メール	1人
ファクシミリ	0人
その他	0人
合 計	2人

■意見の概要及び意見に対する市の考え方

No.	意見概要	意見数	市の考え方
1	経常収支比率の分析が必要ではないか。	1件	経常収支比率は開院以降黒字で推移しており、入院・外来患者数は減少傾向にありますが、患者1人1日あたりの診療単価は向上している分析概要をP.10で記載しています。
2	材料費比率が全国平均に比べて高い要因はなにか。	1件	P.10で記載しているとおり、新型コロナウイルスの感染流行以降、材料費比率は増加しています。患者1人1日あたり収入をみると病床規模が類似した公立病院の平均より低くなっており、材料費率が高くなっている要因と考えられます。診療報酬の減額改定や医療材料の高騰など厳しい状況ではありますが、引き続き民間ノウハウを活用した病院経営に努めてまいります。
3	外来患者数は岩瀬地区が53.6%と高い。大和・真壁地区は西部メディカルセンター等の市外で受診し	1件	当該病院の来院患者の住所地から分析した数値のため、それ以外がすべて市外の医療機関を受診していると直接読み取れるものではありません。

	<p>ているということか。</p>		<p>ん。 外来であれば、桜川市内の他の医療機関を受診している患者も相当数いると考えられます。</p>
4	<p>さくらがわ地域医療センターの水道について、飲料水は市の上水道から、雑排水は地下水を活用していると伺った。 地下水を活用しているのであれば、水道法に適した処理をして飲料水として活用してはどうか。市の上水道と併用すれば経費の節減が図れるのではないか。 地下水の水量が不足しているのであれば、掘削して確保してはどうか。 また、震災が発生して上水道の配水が停止した場合においても、診療機能は停止することなく継続できると思われる。災害時の対応医療機関として、設備の確保を含め検討してはどうか。</p>	1件	<p>上水道は飲用水及び医療用として使用し、地下水及び雨水はろ過装置を通して雑用水に使用しております。この雑用水の不足分は上水道で補充しています。 災害時の備えとして、上水道の受水槽は貯水量が大きいものを使用しており、災害発生時に断水しても数日程度は診療等を継続できるよう設計されています。 また、長期保存可能な飲用水も備蓄しており、定期的に期限の管理を行っております。 地下水と上水道の併用については、現在の病院設計や経営面に大きな影響もあるため、ご意見として承ります。</p>